

事例研究報告

特別支援学校高等部生徒の自発的なコミュニケーション表出支援

生徒の実態

- ・本来は人と話すことが大好きだが、慣れない場所や人には緊張しやすく、とたんに話せなくなる。
- ・質問にどう答えたらよいかわからないときに黙り込んでしまうことがある。その後、相手から促されればされるほど話せなくなることが多い。
- ・文章の読み取りや自分の考えを言葉にしてまとめることが苦手である。
- ・本人からの発問は、主語や目的語が抜けていて伝わりにくいことが多い。

教員の考え

「集中できるようになって欲しい」

「主体的に動けるようになってほしい」



アドバイザーからの助言

自発的なコミュニケーションを増やしましょう。

まずはルール of 言葉を作り、パターン化して取り組むことで自発的に表出することへの抵抗を無くしていくことから

始めましょう。



指導目標の見直し

【長期目標】

話す内容が出てこないときに、10秒以内に自分から言葉で伝えることができる。

【短期目標】

話す内容が出てこないときに、教員の5秒カウントで自分から言葉で伝えることができる。

【指導目標】

話す内容が出てこないときに、教員の5秒カウントで「すみません、わかりません」と伝える。

方法

【対象児】

高等部生徒，知的障がい，発達障がい

【指導場面】

授業場面

【般化場面】

日常生活場面，授業場面

【教材】

ルールの言葉を書いたカード

指導：自発的なコミュニケーション指導

【ベースライン】

話す内容が出てこないときに、教員の5秒カウントで自分から言葉で伝えることができるか記録を取る。

【指導開始前】

以下のルールを決める。

- ①生徒が10秒以上黙った場合、教員が5秒カウントをする。
- ②5秒カウントしても言葉が出てこない時は、「すみません、わかりません」と言う。

(言葉は生徒と相談して決め、言葉を書いたカードを机に貼るようにした。)

【指導開始後】

話す内容が出てこないときに、教員の5秒カウントで、「すみません、わかりません」と伝えることができるか記録を取る。

記録方法と記録

指導場面での本生徒の行動を以下のように得点化して記録する。

【得点】

- ・教員の5秒カウント前に言葉を伝える・・・3点
- ・教員の5秒カウントで言葉を伝える・・・2点
- ・教員の5秒カウントとカードの指さしで言葉を伝える・・・1点
- ・教員が5秒カウントとカードの指さしをしても黙っている・・・0点

指導の成果

指導開始後から、5秒カウントでルールを伝えられるようになりました。指導が進むにつれて、カウント無しで伝える場面も増えてきました。

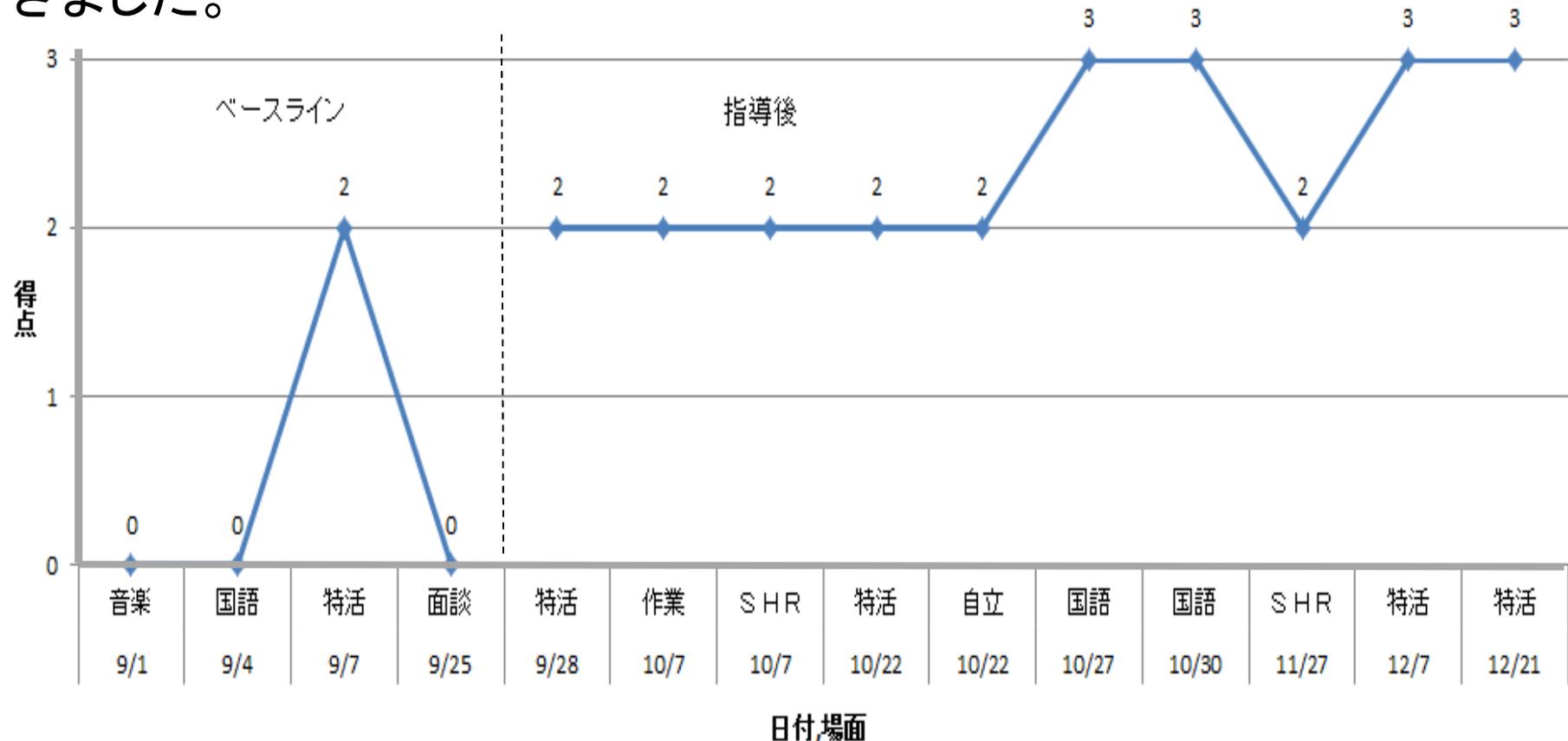


図 「高等部1年生徒の自発的なコミュニケーションの表出の支援」

結果1：自発的コミュニケーションの得点

ここが成功のポイント



○最初にルールという言葉を作り、パターン化して取り組むことで自発的に表出することへの抵抗を無くしたこと。ルールという言葉以外にも、自分で状況に合わせて伝える場面が日常生活で増えてきた。